

プリマキンを投与する前に、本剤が禁忌の患者さんか、または慎重に投与する必要のある患者さんかを『プリマキン患者チェックシート』で確認し、チェックシートの情報を参考に、プリマキン投与の可否を判断してください。

● グルコース-6-リン酸脱水素酵素 (G6PD) 欠損など(重篤な溶血性貧血が起こる可能性がある)

チェックポイント			本剤投与の可否
本人がG6PD欠損などの赤血球酵素異常症と診断されたことがありますか。	<input type="checkbox"/> いいえ	<input type="checkbox"/> はい	G6PD欠損： 本剤の投与は禁忌です。 先天性NADH・メトヘモグロビン還元酵素欠損症： 本剤の投与は慎重投与となります。
G6PD欠損などの赤血球酵素異常症と診断された家族がいますか。	<input type="checkbox"/> いいえ	<input type="checkbox"/> はい	溶血性貧血があらわれるおそれがあるので、本剤を投与される際は、患者の状態を十分に観察し、貧血を示唆する症状が認められた場合は本剤の投与を直ちに中止し、適切な処置を行ってください。
本人または家族で、薬剤投与*により溶血性貧血が発現したことがありますか。	<input type="checkbox"/> いいえ	<input type="checkbox"/> はい	溶血性貧血があらわれるおそれがあるので、本剤を投与される際は、患者の状態を十分に観察し、貧血を示唆する症状が認められた場合は本剤の投与を直ちに中止し、適切な処置を行ってください。

*: G6PD異常症の患者さんに投与した場合、溶血を惹起する可能性のある薬剤(「赤血球 医学書院; 195-212, 1998」一部改変)

- ・確実な薬剤・・・スルファメトキサゾール、ナリジクス酸
- ・可能性のある薬剤・・・クロラムフェニコール、ビタミンKアナログ
- ・疑わしい薬剤・・・スルファジアジン、アセトアミノフェン、アスピリン、ビタミンC、ジメルカプロール、ドキシルビシン、プロベネシド

G6PD欠損症は通常は無症状ですが、薬剤、細菌感染症、ソラマメなどがきっかけで赤血球膜が破壊されて、赤血球の破壊=溶血を起こす疾患です。